

【献立名】 秋の五目うどん 牛乳 子いわしのフライ
小松菜のアーモンド和え お月見ゼリー



【ひとロメモ】

十五夜について知ろう

(食文化)

日は中秋の名月、または十五夜と言って、1年中で月が一番美しく見える日です。この時期の空は澄んでいて月がきれいに见えます。よく晴れた夜に、月をながめてみるのもいいですね。

月は昔から農業に深く関わってきました。人々は、月の満ち欠けを見て、いつ、どんな農作業をしなくてはならないのかを目安にしていました。月のおかげで食べものが育ち、収穫できることから感謝の気持ちとこれからの豊作を願って、里いもやだんご、枝豆など、その年にとれた食べものをお供えし、すすきを飾り、静かに満月をながめました。また、里いもをお供えすることから「いも名月」と呼ぶこともあります。

今日は、お月見にちなんで、うどんの中に里芋を入れ、デザートにお月見ゼリーをつけています。収穫に感謝して味わっていただきましょう。

令和7年 10月 6日(月) 第二学校給食センター

(献立名) 五目うどん 牛乳 かぼちゃのかのこ揚げ
きゅうりのごまあえ お月見ゼリー



【ひとロメモ】

十五夜について知ろう

(食文化)

今日10月6日は十五夜です。月見は、十五夜と十三夜に、秋の収穫物を供えて月をながめる行事です。

月見のお供えものには、ススキや団子、さといもなどがあり、それぞれに意味があります。月見のススキは、「依代」(神がよりつくもの)」といわれています。団子は、米を粉にして作った団子で、収穫への感謝の意味があります。

今日の給食ではお月見ゼリーをつけています。

今晚は美しい月が見られるといいですね。

令和 7 年 10 月 6 日 (月)

飯山学校給食センター

【献立名】 秋の五目うどん

牛乳 小いわしのフライ

小松菜とコーンのあえもの お月見ゼリー

《今日の丸亀産の食材》

葉ねぎ 小松菜



【ひと口メモ】

十五夜について知ろう

(食文化)

昔の人が詠んだ歌に「月々に、月見る月は多けれど、月見る月は、この月の月」という歌があります。この歌は「毎月のように月を鑑賞できる月があるけれど、名月を見る月といえばまさに今月のこの月だね」という意味だそうです。

「この月の月」というのは、旧暦の8月15日の月のことで、今年は今日、10月6日の夜に見える月です。中秋の名月、または十五夜といって一年で月がいちばん美しく見える日です。満月を鑑賞するこの行事は、中国で始まり平安時代に日本に伝わってきました。この日には、昔から里芋やだんごなどその年にとれた食べものをお供えし、すすきを飾り、静かに満月を眺めました。特に里芋をお供えすることから「いも名月」と呼ぶこともあります。

今日の給食では、里芋の入った秋の五目うどん、お月見ゼリーが登場していますね。今夜は、お家の人と一緒に月見を楽しみましょう。